

甲賀地域のなし産地の育成

対象者 甲賀地域なし栽培研究会

【普及活動のねらい】

平成 28 年度から、普及指導センターと関係機関が連携してなしの栽培者を募り、新たな産地づくりを進めています。近年は、栽培年数の経過による樹冠の拡大や新規栽培者の増加により生産量が徐々に増えてきています。そこで、今年度は、通年の栽培研修会に加え、栽培上の課題や工夫を農家間で共有することを目的とした管内なしほ場の見学や、果実品質の向上のための現状把握を目的とした糖度測定会を行いました。

【普及活動の内容】

なし栽培研究会では、栽培年数の長い方では収穫 5 年目を迎え、栽培管理などの技術が確立されてきており、安定的に収穫が行われるようになってきました。一方で、初収穫を迎える方や新規栽培者もおられるため、研修会や現地巡回など、栽培経験に合わせた支援を行っています。

管内なしほ場の見学

ほ場の見学では、なし栽培研究会の農家、JA と管内 5 戸の農家のほ場を見学しました。枝管理や果実の付け方など栽培管理について、かん水設備の設置方法など施設についての話題が多く出ており、先輩農家と新規栽培者の間でも情報交換ができました。出ていた意見うち、多くの農家で側枝の更新が共通の課題になっていることが分かりました。



ほ場見学の様子

糖度測定会

糖度測定会では、なし栽培研究会の農家、JA となしの糖度測定を行いました。各農家が収穫したなしを持ち寄り、非破壊糖度計を用いて測定しました。他県や県内他産地のなしの糖度測定もあわせて行い、管内でも他産地と同等の糖度の高いなしが生産できていることが確認できました。また、地元産ならではのみずみずしさが特徴となっていることも分かりました。



糖度測定会の様子

【普及活動の成果】

栽培開始から年数が経過し、改めて栽培上の課題や果実品質などの現状を把握することができました。管内で生産されたなしは農協直売所や各戸の庭先販売などで順調に販売されていますが、新規栽培者の増加による栽培面積の拡大、生産量の増加が予想されていることから、今後は安定販売を目的とした個選共販体制の整備に向けた支援を行います。